歯科医院でDNA採取・保管

全国普及目指しワークショップ

大規模災害時の遺体の身元確認を始め、有事の際のDNA型鑑定に活用できるよう、歯科医院で口腔粘膜からDNAを採取・保管する「短期型DNA採取保管事業」のワークショップが21日、東京都中央区の京橋区民館で開かれた。今年4月に設立した「From Dental DNA Projects」（中村佳嗣・藤城道義共同代表）らが進めるもので、「全国の各郡市区町村に1認定歯科医院」を目標に、全国でワークショップを開催していく予定だ。

同事業は、DNAを長期に保管できる特殊なFTAカードを使い、口腔内粘膜細胞および唾液からDNAを簡便に採取して、歯科医院と神奈川歯科大学災害医療歯科学法医歯科学の2カ所に3年間保管するシステム。ワークショップの受講が事業参加の認定資格となる。

中村共同代表は、「患者さんの費用負担は数千円で、作業は5～10分で済む。従来のものと比べてさまざまな面で簡便」と説明。災害や事故での身元不明遺体の身元確認を始め、将来的には独居高齢者への対応や認知症による徘徊対策にも応用できるのではないかとの考えを示した。

ワークショップで実際に口腔粘膜の採取を学ぶ参加者ら

ワークショップでは、神歯大の山田良広教授が、DNA型鑑定の基本的な知識について講演。個人識別に用いられる「指紋」、「歯牙」、「DNA」それぞれのメリット、デメリットを紹介した上で、生前のDNAを保管する有用性を強調した。

さらに、参加者自身が、実際に口腔からDNAを採取する工程を実習し、認定を受けた。

同様のワークショップは既に愛知で1回開かれており、今後、10月に大阪、11月に福岡での開催を予定。順次、全国各地を回っていくという。

問い合わせはメール（ny8820@rose.ocn.ne.jp）まで。

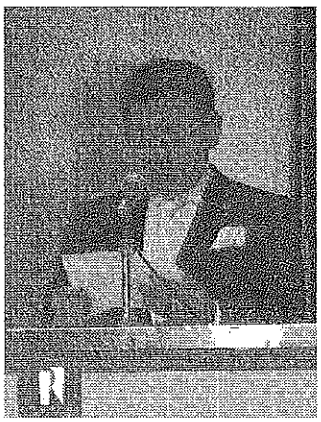
30周年で記念式典

北医大歯学部同窓会

北海道医療大学歯学部同窓会（養輪隆宏会長）は設立30周年記念式典・記念祝賀会を13日、札幌市のロイトン札幌で開いた。

式典で養輪会長は30年の同窓会活動につ
を果たすことはしくなかったとべ、「30年の節目ともに祝えるの来へ向け再出発力となる。学生てる歯科界を築力ながら活動しと思っている」しました。

来賓を代表し園の東郷重興理道医療大学の新長、斎藤隆史歯学歯科医師会の大長が祝辞を述べ卒業生を支え、発展に尽力してきの感謝と今後の展を


養輪会長はあいさつで同窓会への協力に感謝の意を示した

母の世科医的と道医部未養輪藤歯呈さ

アレキサンダー研究会

念大会

を再考

出てくるが、それはあくまでも私たちを助けるツールに過ぎず、優れた診断、臨床の技術にとってかわるものではない。矯正が今後も生き残れるかは、一人一人の臨床医の患者への向き合い

い。下顎の切歯は3度までならフレアできるけれど、それ以上は安定しない」、「下顎の犬歯間の幅径は、1ミリまでならば拡大しても良い」、「2級の患者にはヘッドギア、フェイスボウほど有効なものはない」、「前歯6本はアンギュレートすべき」などと述べた。

関わる「15Key」の基準値から外れて、後戻りしたとみられる事例を紹介。5～10年のパートでは、成長期段階での上顎歯列弓の形態を考慮する重要性や、MFTの効果、習癖の関与などを取り上げた。さらに10年以上のパートでは、患者の協力が不可欠な点を踏まえて、ノンテクニカルスキルの大切さも強調した。

ドクター角町の

06

町 正勝

院院長（長崎市）

は、具合を尋ねるとともに、誤嚥によって熱が出ていることも考えられるので、必ず

階時メ